

令和4年4月12日	資料2-1
第2回 効果的・効率的な実施方法等に関する ワーキング・グループ	

ICTを活用した特定保健指導の実施状況について

ひと、暮らし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

特定保健指導におけるICTの活用状況 — 保険者調査概要 —

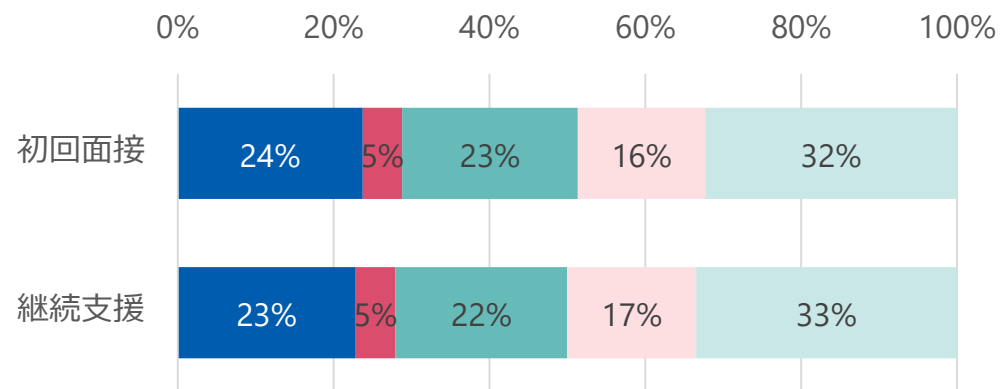
■ 調査対象

「令和3年度特定保健指導遠隔実施支援モデル事業」※の交付申請を行った保険者

■ 回答保険者数

■ 特定保健指導の実施方法

保険者種別	件数
国民健康保険	6
健保組合	39
全国健康保険協会 本部	1
(都道府県支部)	(47)
合計	46 (計92)



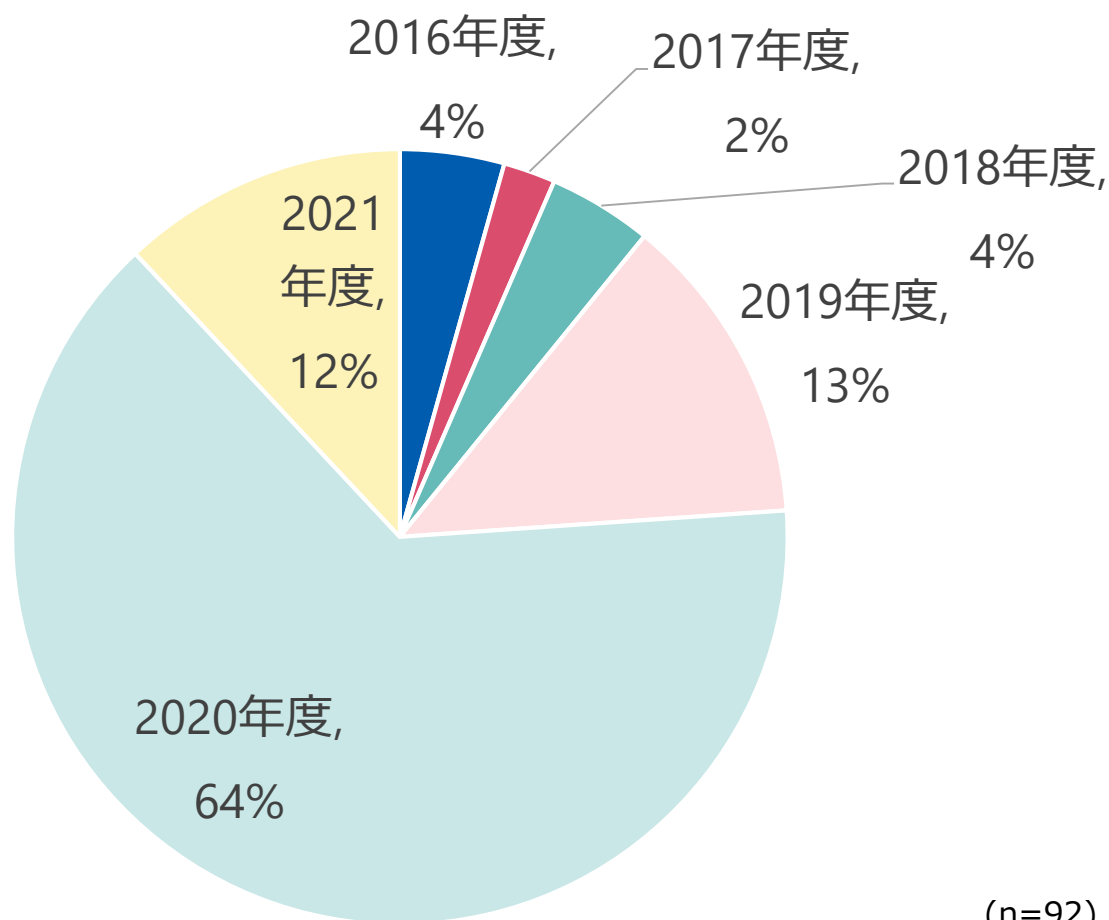
- 保険者の保健師等が実施
- 事業主の産業保健スタッフ等が実施
- 保険者が個別に契約する医療・健診機関で実施
- 集合契約で実施
- 民間サービス事業者に委託して実施 (保健指導会社)

※各保険者が行う特定保健指導について、情報通信技術を活用した特定保健指導の実施を支援するため実施するモデル事業

特定保健指導におけるICTの活用状況 —ICT導入の時期—

特定保健指導でICTの活用を始めた時期は、2020年度が64%と最も多い。

■ 特定保健指導でICTの活用を始めた時期

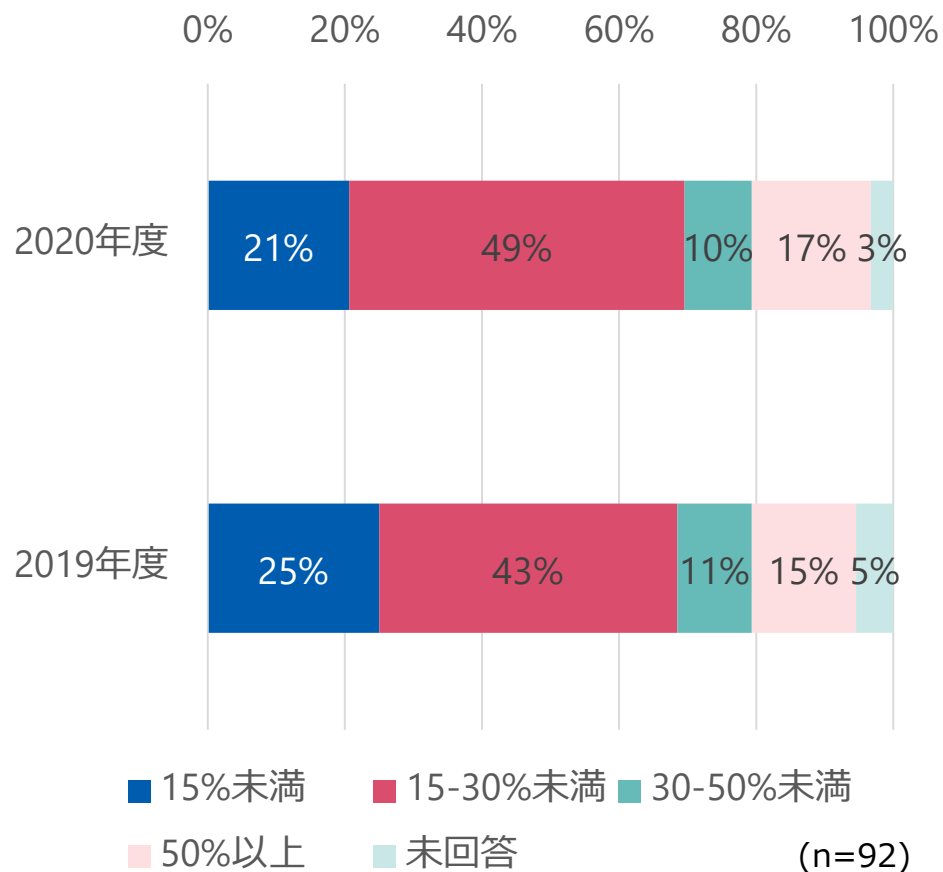


(n=92)

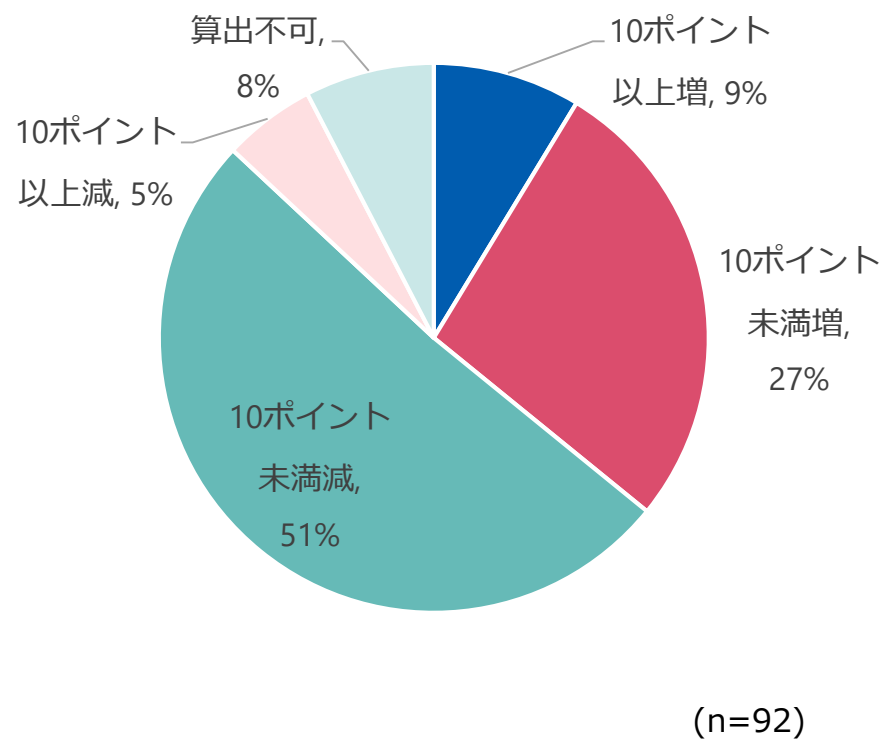
特定保健指導におけるICTの活用状況 —特定保健指導実施率の変化—

15-30%未満の実施率の保険者が半数を占める。2020年度の実施率が増加した保険者は36%、減少した保険者は56%である。

■ 2019年度及び2020年度の特定保健指導実施率



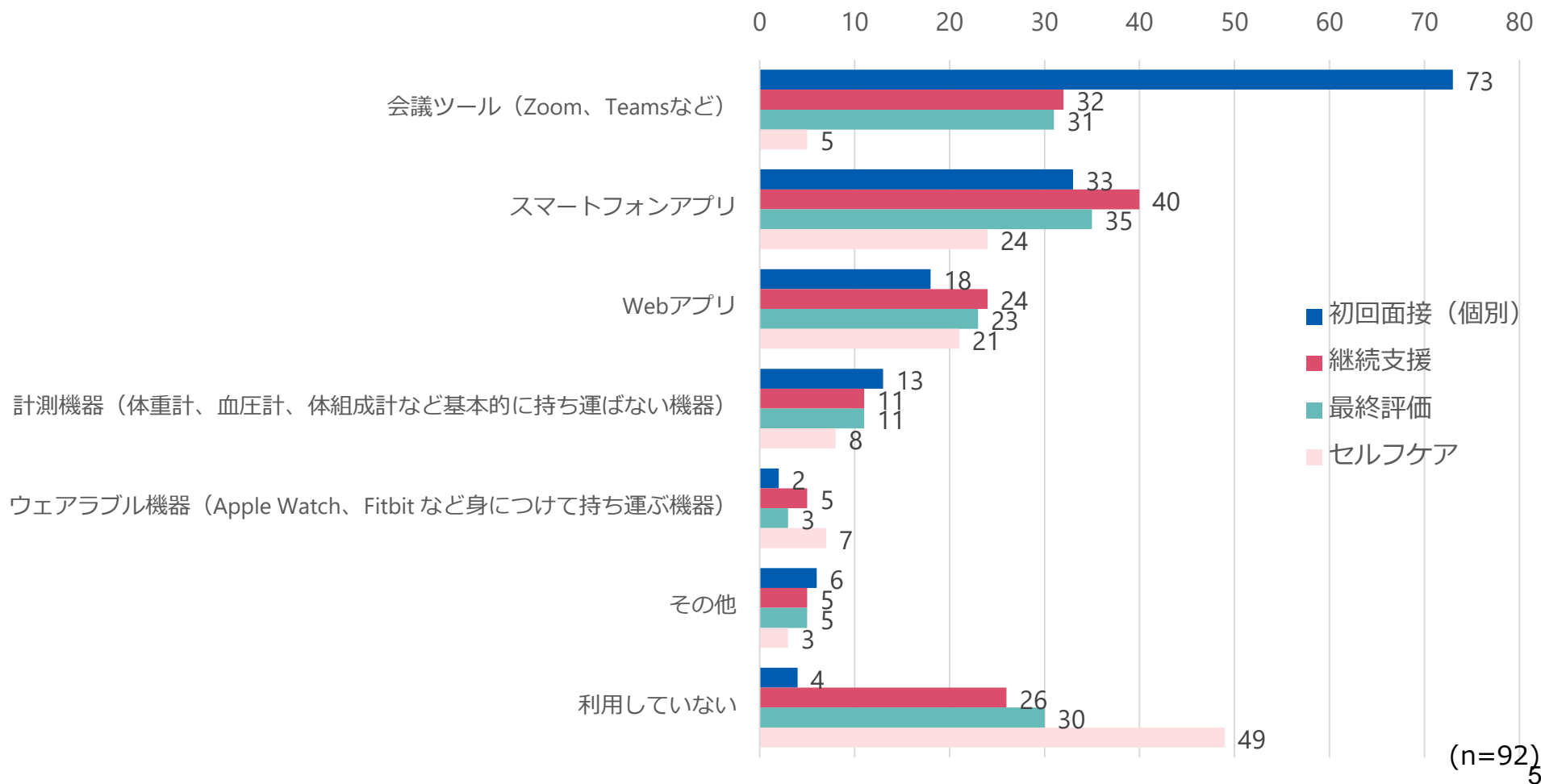
■ 2019年度と比較した2020年度の特定保健指導実施率増減



特定保健指導におけるICTの活用状況 —ICT技術・デバイス—

初回面接では「会議ツール（Zoom、Teamsなど）」の活用が最も多かった。継続支援や最終評価では、「スマートフォンアプリ」の活用が最も多かった。

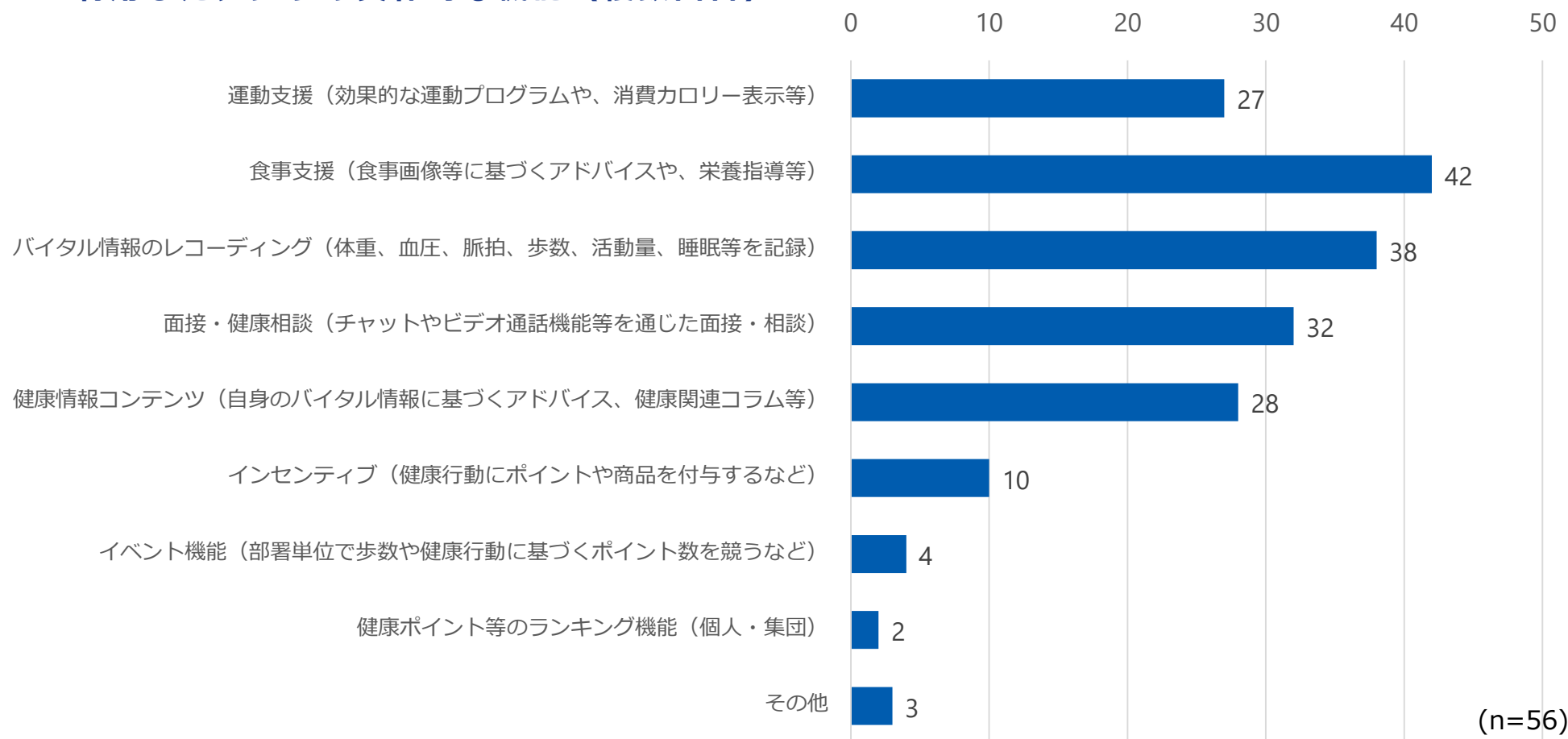
■ 2020年度の特定保健指導で利用したICT技術・デバイス（複数回答）



特定保健指導におけるICTの活用状況 —アプリの機能—

「スマートフォンアプリ」及び「Webアプリ」で活用した機能は、「食事支援」が最も多く、次いで「バイタル情報のレコーディング」、「健康相談」である。

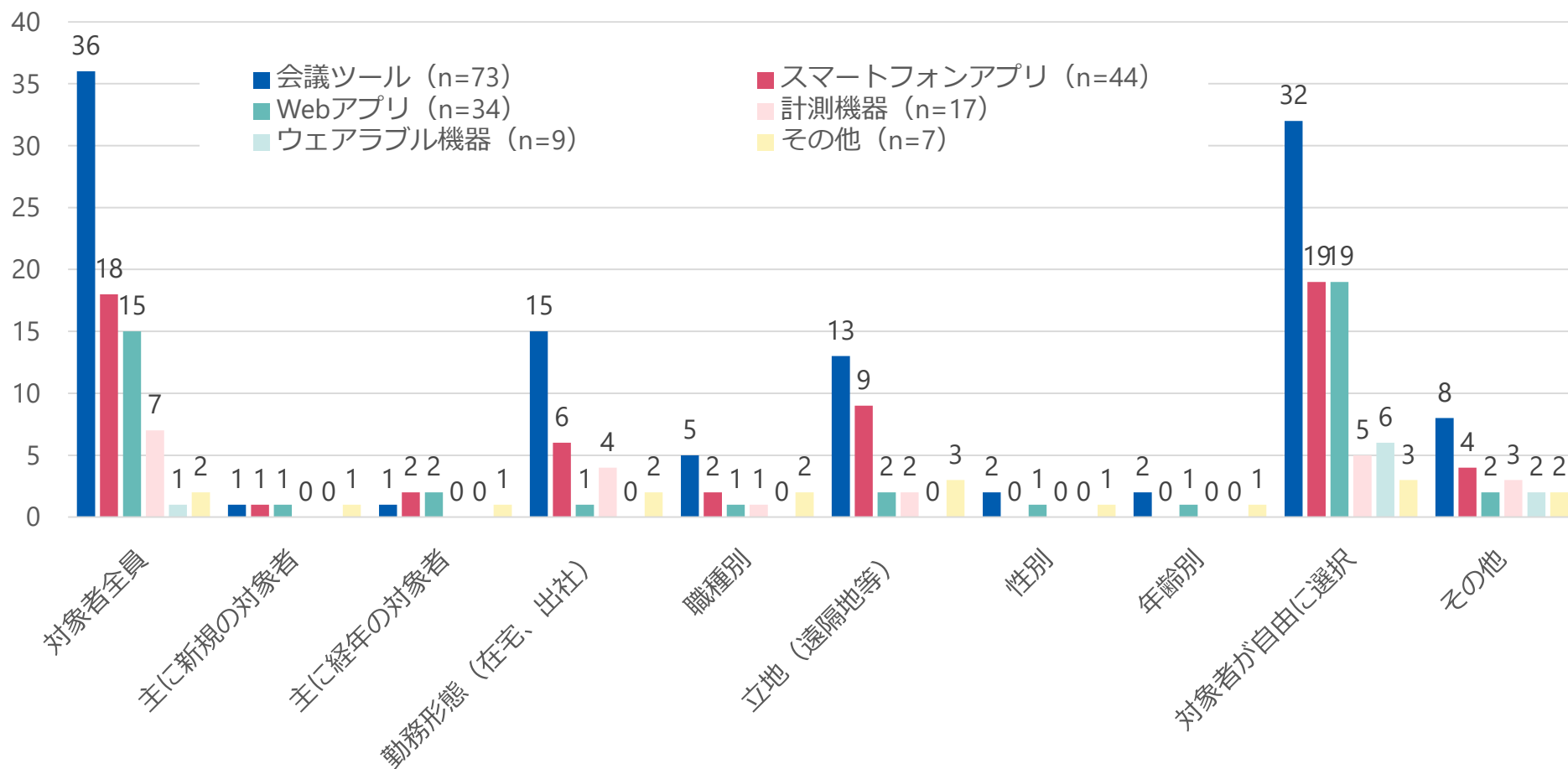
■ 利用したアプリの具体的な機能（複数回答）



特定保健指導におけるICTの活用状況 —ICT利用対象者—

各ICT技術の利用対象者は、「対象者全員」と「対象者が自由に選択」が多く、次いで「勤務形態（在宅、出社）」や「立地（遠隔地等）」が多い。

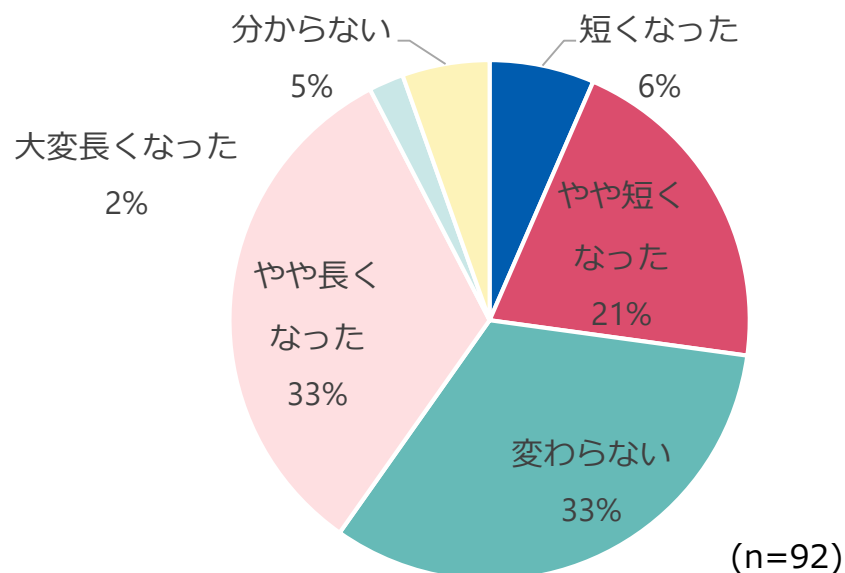
■ ICT技術の主な利用対象者（複数回答）



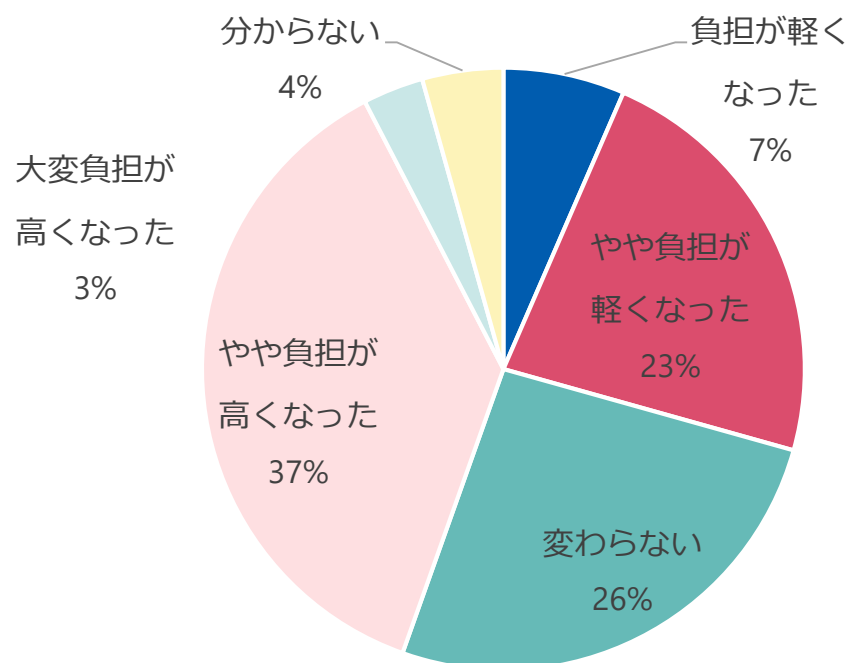
特定保健指導におけるICTの活用状況 —かかった時間、負担感の変化—

全体にかかった時間は、「長くなった」が35%、「変わらない」が33%、「短くなった」が27%である。業務の負担感は、「負担が高くなった」が40%、「軽くなった」が30%、「変わらない」が26%である。

■ ICTを活用した特定保健指導で全体にかかった時間（従前の特定保健指導との比較）



■ ICTを活用した特定保健指導で感じた業務の負担感（従前の特定保健指導との比較）



注) 初回面接は、対面とICTで必要な支援時間が異なる。

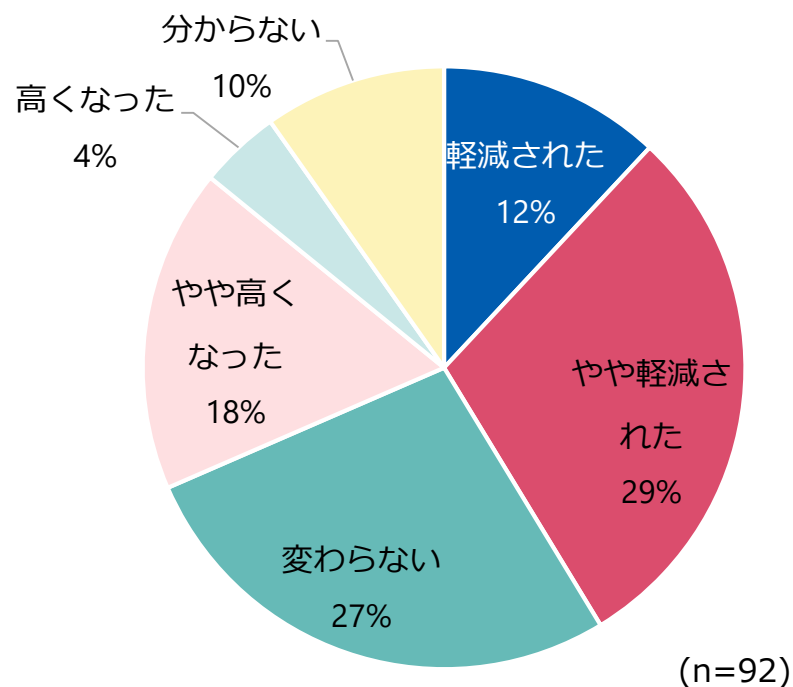
- ・ 個別支援20分以上（ICTを活用した遠隔面接はおおむね30分以上）
- ・ グループ支援80分以上（ICTを活用した遠隔支援はおおむね90分以上）

(n=92)

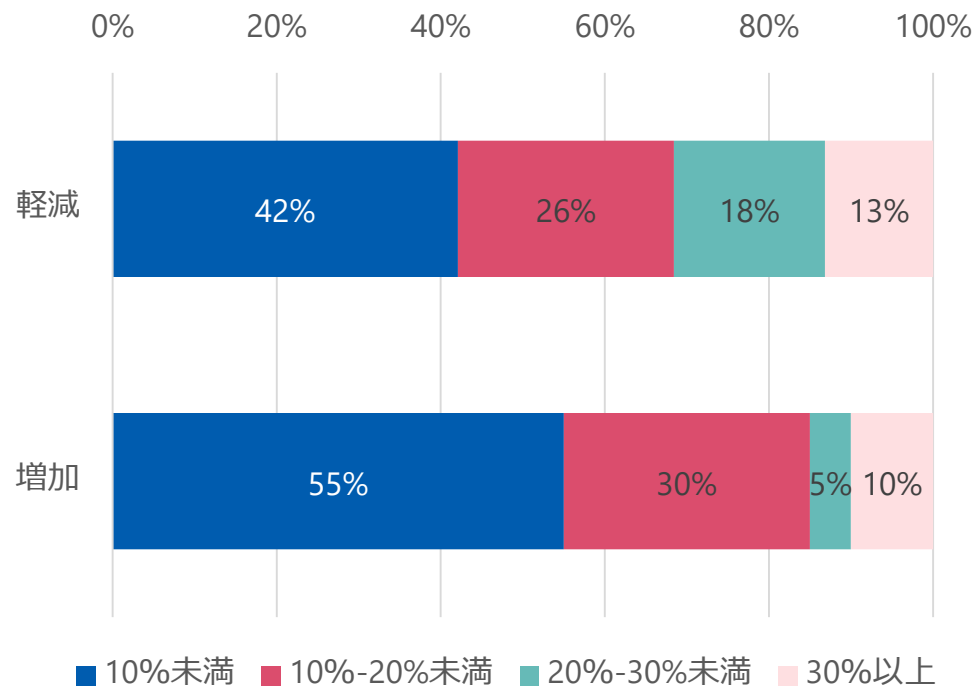
特定保健指導におけるICTの活用状況 —費用の変化—

費用の変化は、「軽減」が41%、「変わらない」が27%、「高くなった」が22%である。費用の変化率は、軽減・増加ともに10%未満が多い。

■ 費用の変化（従前の特定保健指導との比較）



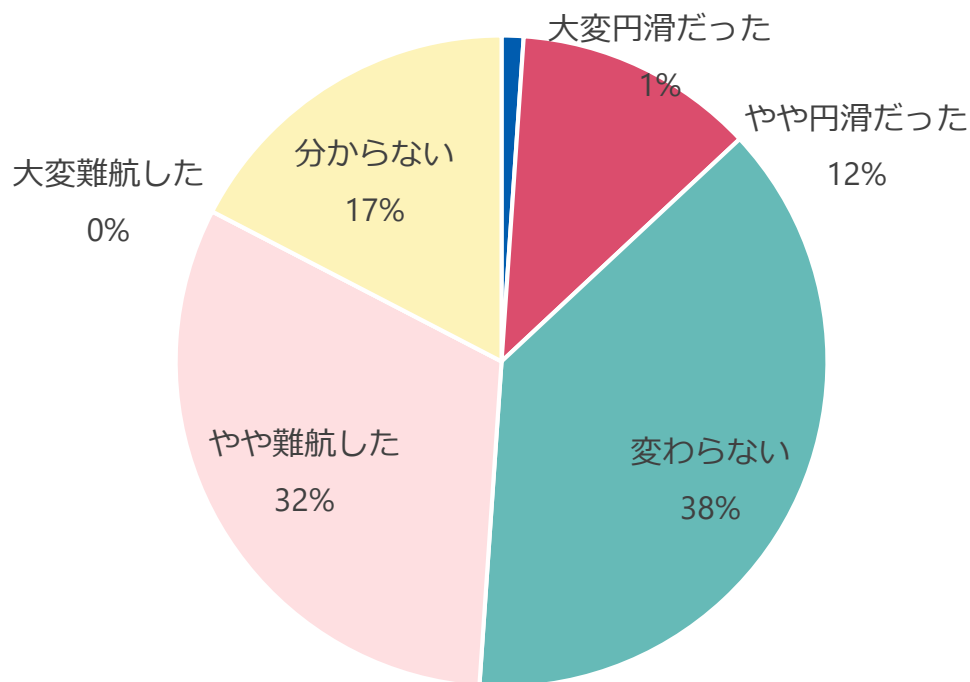
■ 費用の変化率（従前の特定保健指導との比較）



特定保健指導におけるICTの活用状況 —コミュニケーションの変化—

コミュニケーションの変化は、「変わらない」が38%、「やや難航した」が32%、「円滑だった」が13%である。

■ 指導者と対象者のコミュニケーションの変化 (従前の特定保健指導との比較)



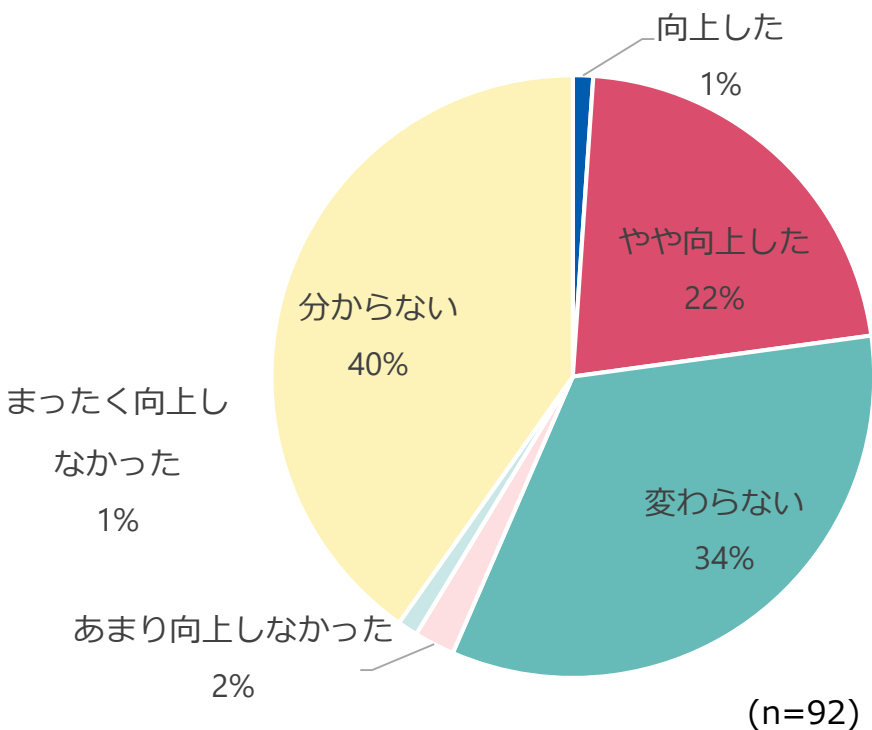
(n=92)

特定保健指導におけるICTの活用状況 ー 行動変容と質の変化 ー

対象者の行動変容は「分からない」が40%、「変わらない」が34%、「向上した」が23%である。特定保健指導内容の質の変化は「変わらない」が58%、「低下した」が10%、「向上した」が9%である。

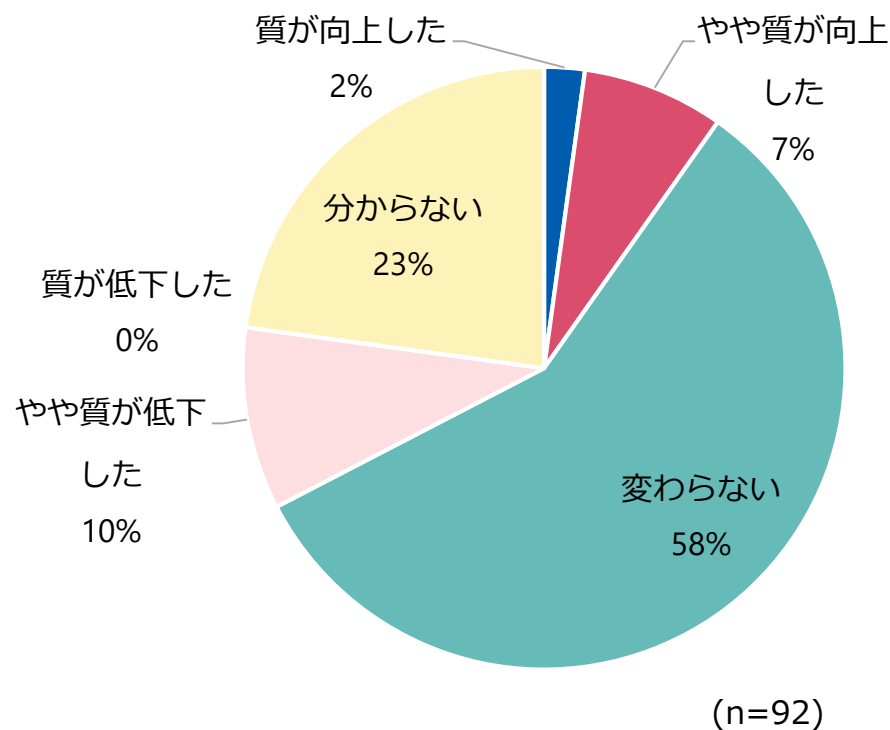
■ 対象者の行動変容（健康リテラシー）

（従前の特定保健指導との比較）



■ 特定保健指導内容の質の変化

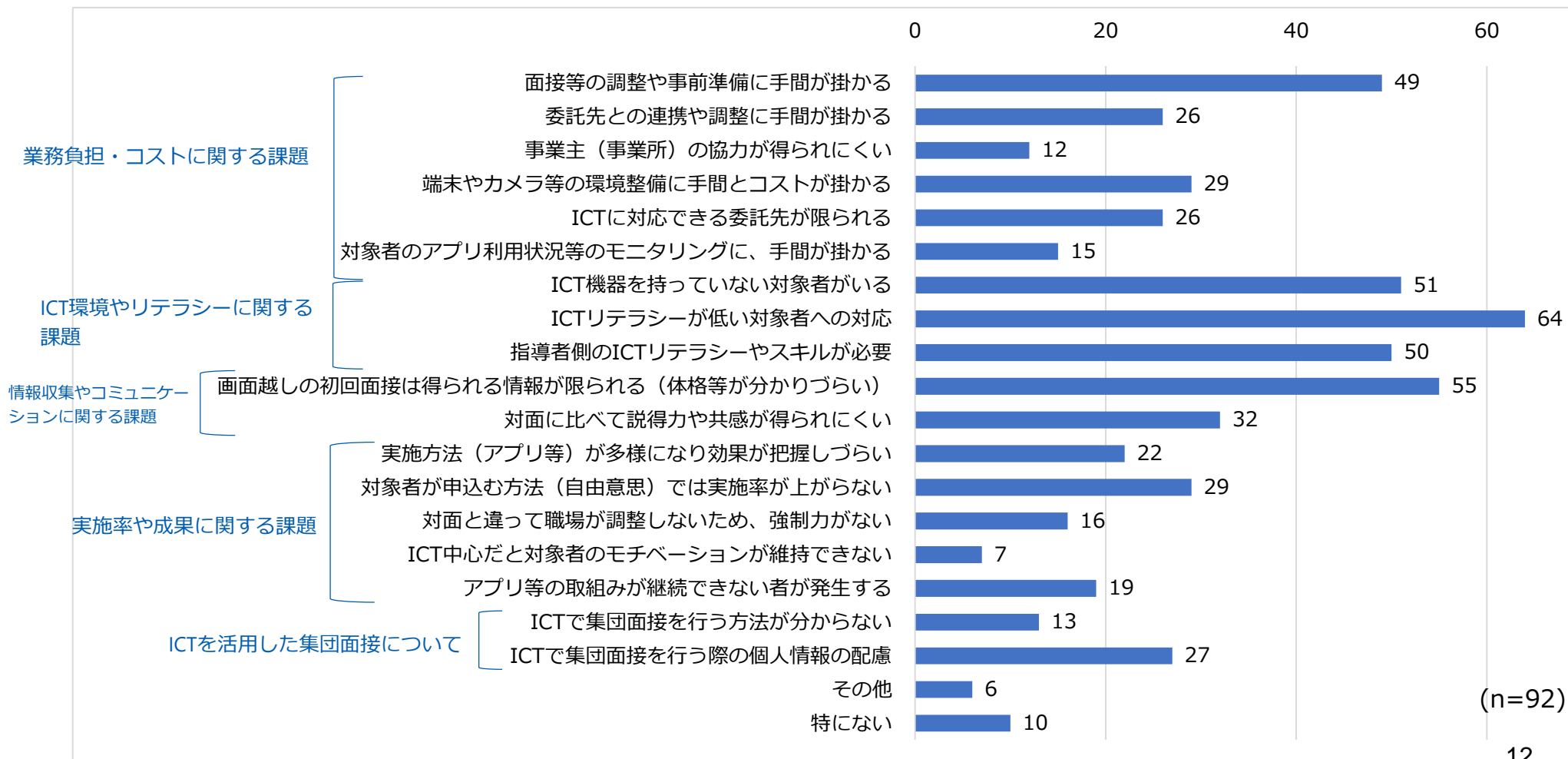
（従前の特定保健指導との比較）



特定保健指導におけるICTの活用状況 — 課題 —

「ICT環境やリテラシーに関する課題」や「情報収集やコミュニケーションに関する課題」「業務負担・コストに関する課題」が多い。

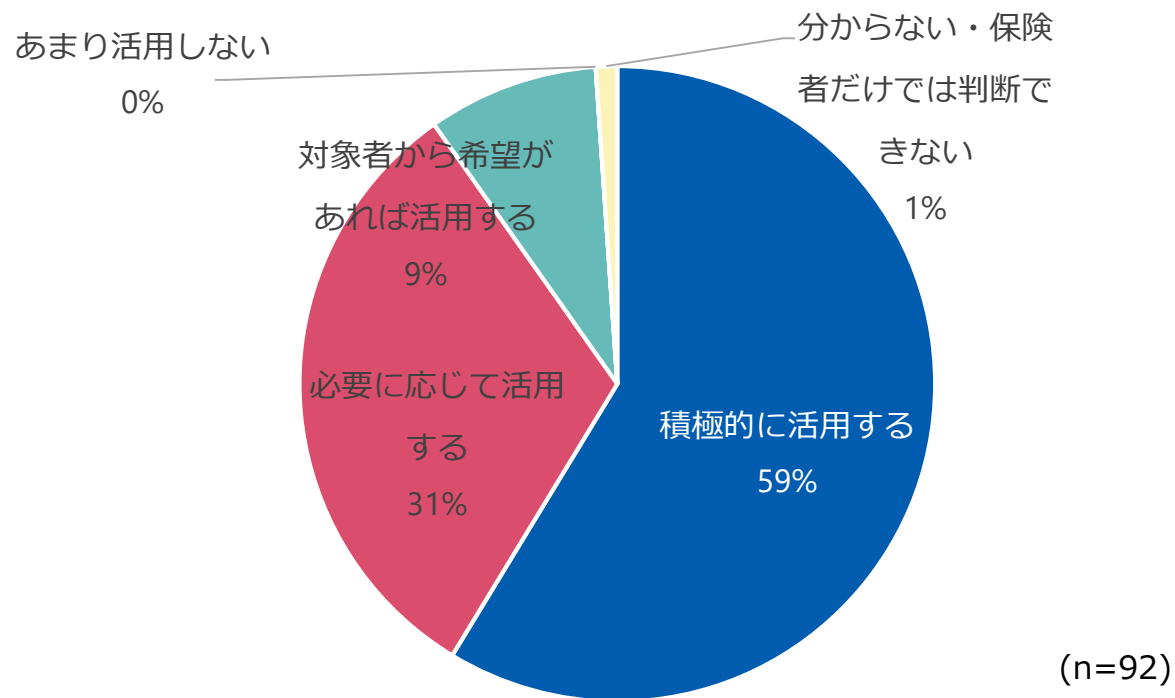
■ ICTを活用した特定保健指導の課題



特定保健指導におけるICTの活用状況 — 今後の活用意向 —

今後の活用意向は、「積極的に活用する」が59%と最も多い

■ ICTを活用した特定保健指導の今後の活用意向



特定保健指導におけるICTの活用状況 —利用者調査概要—

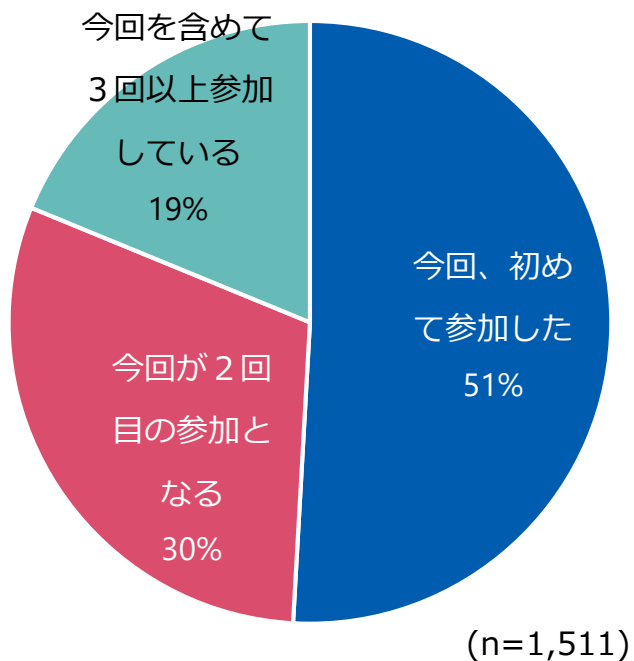
■ 調査対象

「令和3年度特定保健指導遠隔実施支援モデル事業」の交付申請を行った保険者の特定保健指導利用者

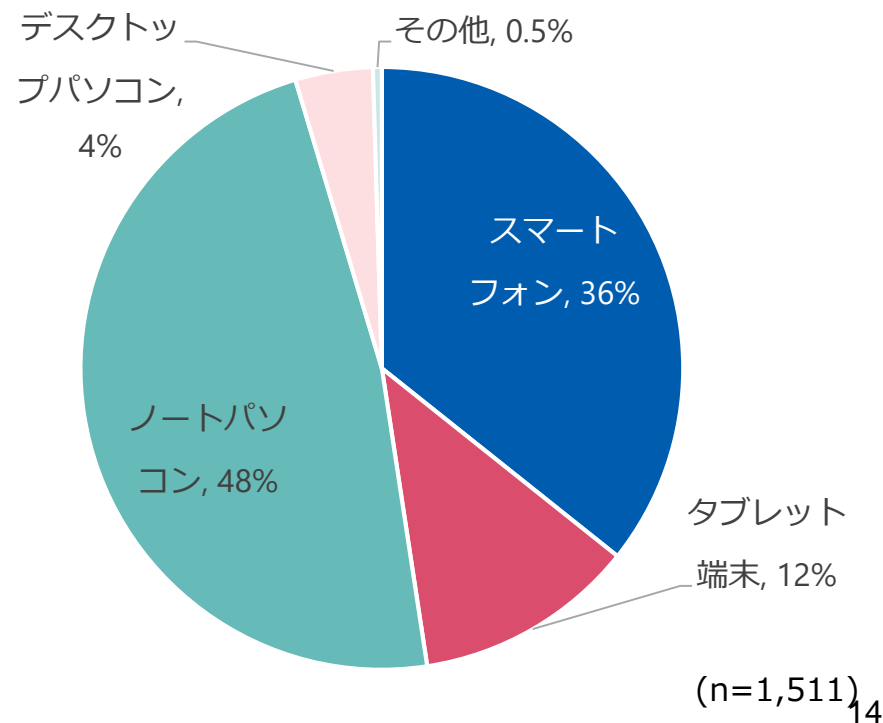
■ 回答利用者数

1,511人

■ 特定保健指導の参加回数



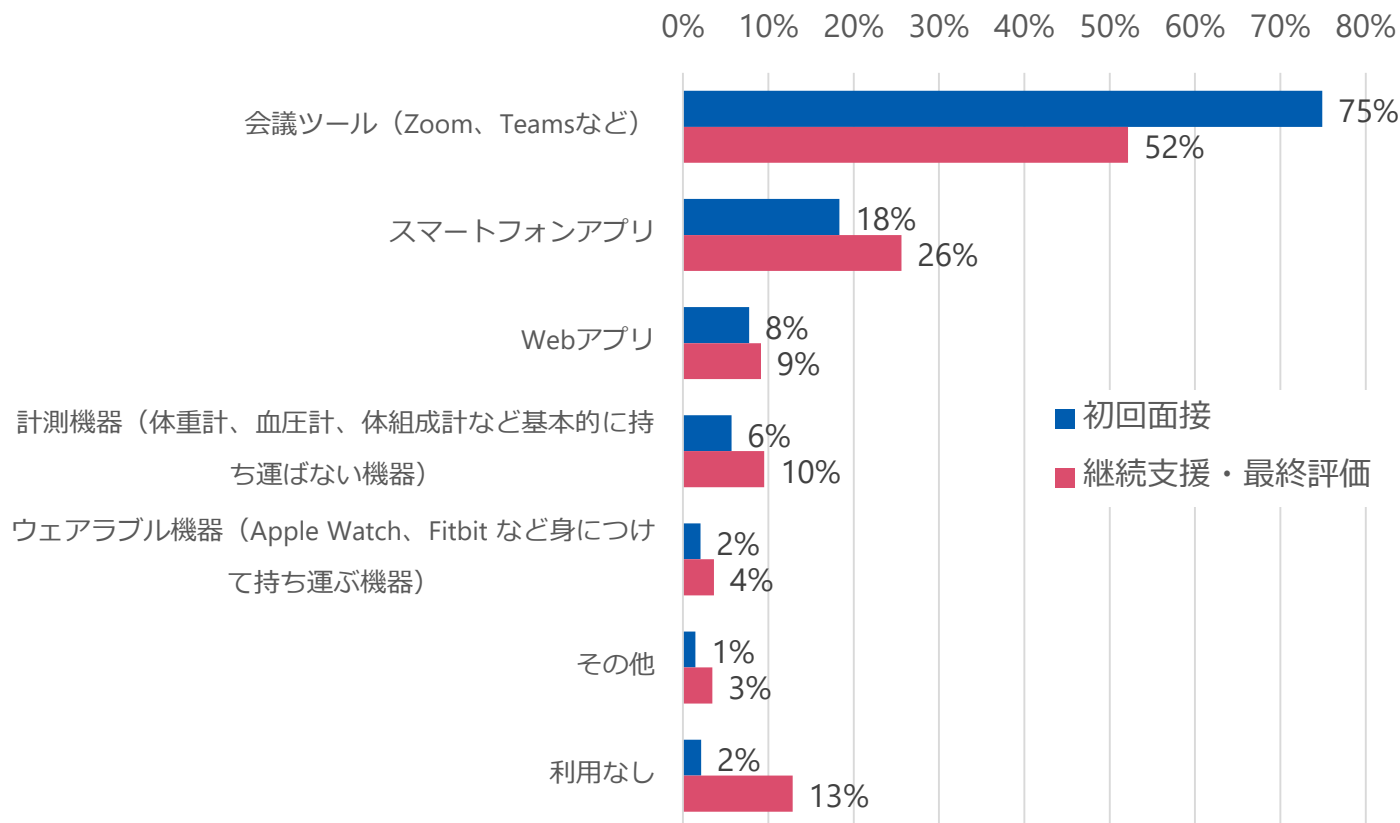
■ 今回の特定保健指導で利用した機器（複数回答）



特定保健指導におけるICTの活用状況 —利用したICTツール—

初回面接、継続支援・最終評価のいずれも「会議ツール（Zoom, Teamsなど）」が最も多い。

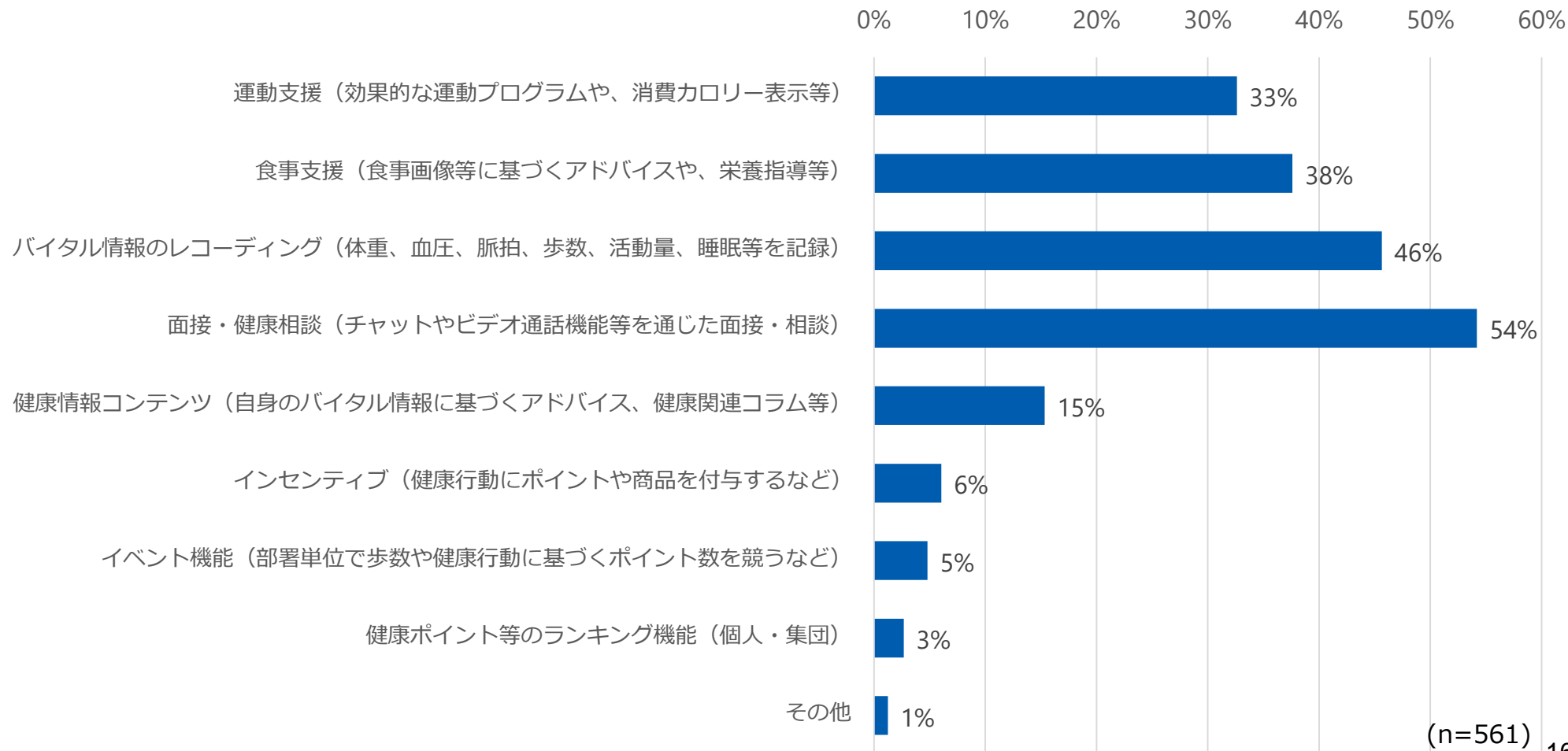
■ 利用したICTツール（複数回答）



特定保健指導におけるICTの活用状況 —アプリの機能—

スマートフォンアプリとWebアプリで活用した機能は、「面接・健康相談」が最も多く、次いで「バイタル情報のレコーディング」である。

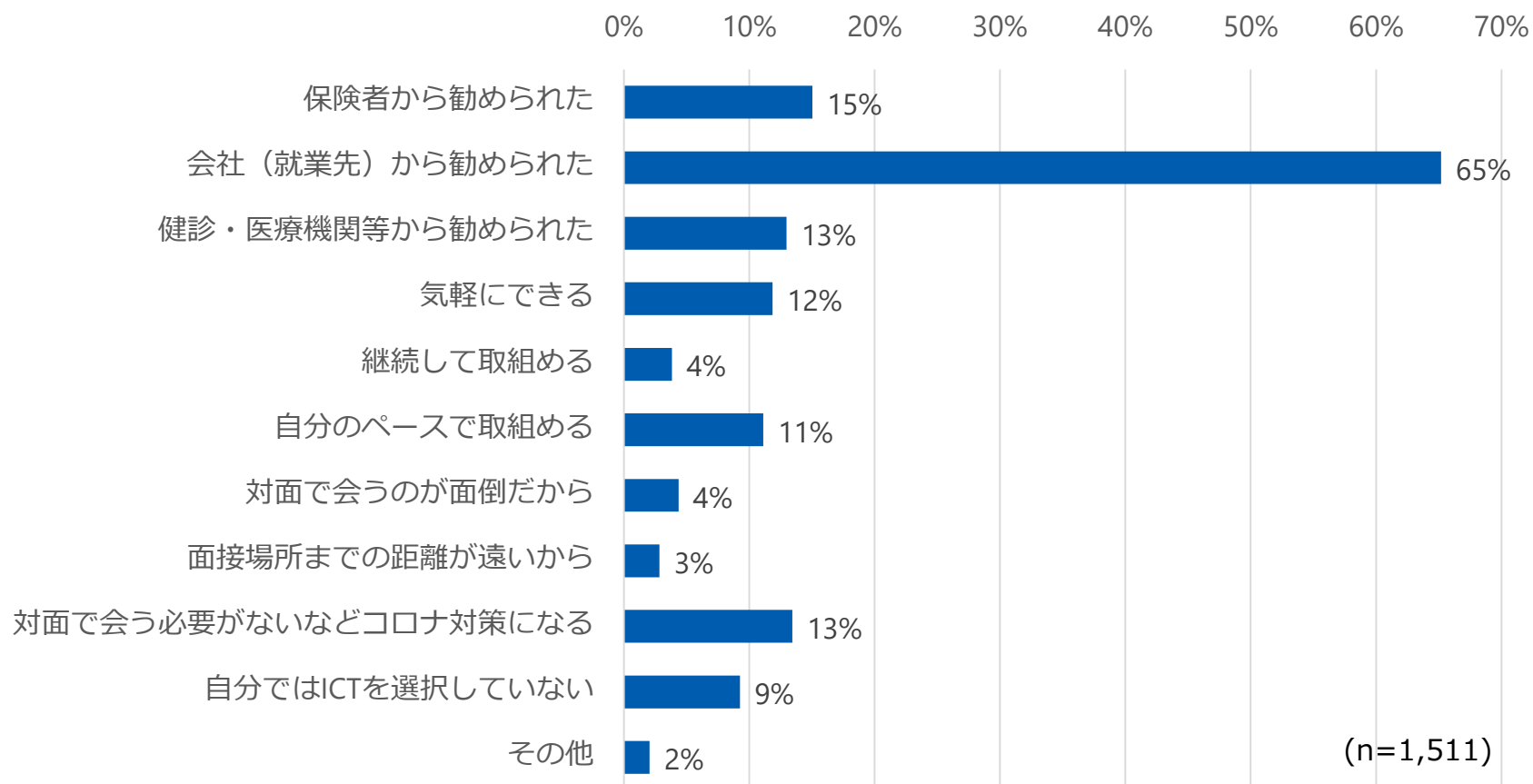
■ 利用したアプリの具体的な機能（複数回答）



特定保健指導におけるICTの活用状況 — 取組の理由 —

取組の理由は、「会社（就業先）から勧められた」が65%と最も多い。

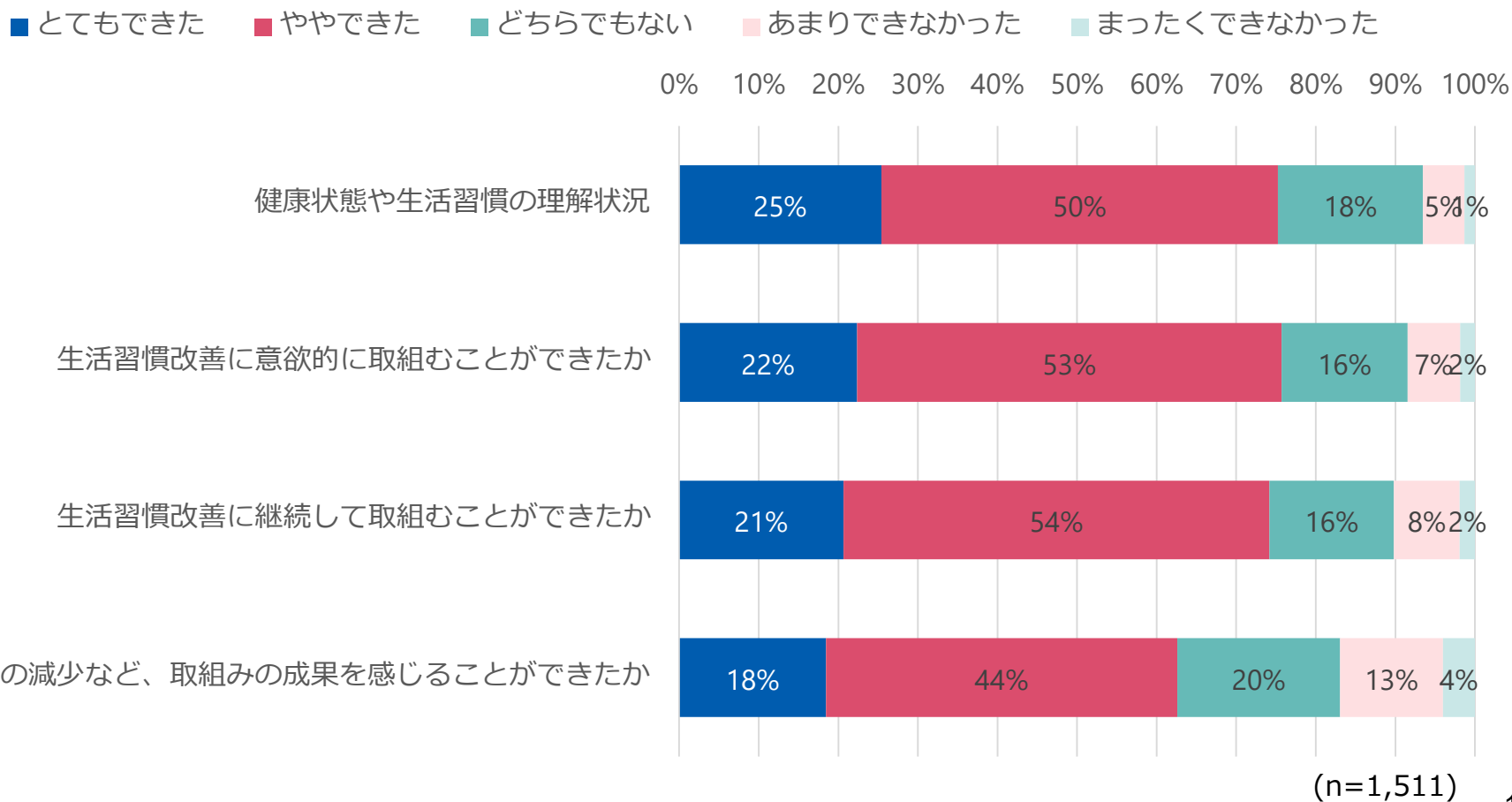
■ ICTを活用した特定保健指導に取組もうと思った理由（複数回答）



特定保健指導におけるICTの活用状況 —取組意欲、成果—

取組への意欲や成果は、「とてもできた」と「ややできた」で過半数以上を占める。

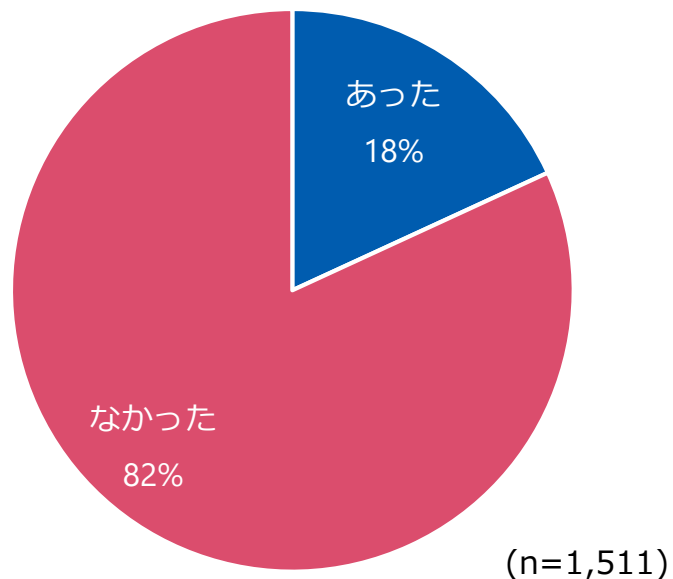
■ 取組への意欲や成果の状況



特定保健指導におけるICTの活用状況 — 取組の理由 —

負担感・困りごとが「なかった」が82%である。今後もICTを活用して生活習慣を改善したいかは「積極的に活用する」「必要に応じて活用する」が73%である。

■ ICTを利用して特定保健指導を行う中の負担感、困りごとの有無



■ 今後もICTを活用して生活習慣を改善したいか

